

にしひも広場

vol.3

特集：世話焼きさんがまちを行く!!

「おはなしボランティア
ぽっぽっぽ」さん

知り合った親子と
街中で会うと「こんにちは」。
挨拶する顔見知りが
増えていきます。

西区の
世話焼きさん

身近な困りごとに目配り、
気配りして、まちに安心感を
もたらしている世話焼きさん
を紹介します。

「対談」

世話焼きさんがいる、
あったかいまち★

世良田 寛さん×今井 宏之さん
お世話になった経験から
「世話焼きさんがいるの
はいいね！」
そんなジモトを愛する
お二人に、今の
「世話焼き」事情を
語ってもらいました。



気負わず自然体で人の手助けをする人、
さり気なく近所を見守る人、仲間と一緒に、ちょっとお手伝い…、
そんなまちのぬくもりをつくる世話焼きさんになる
ヒントを探ります。

連載「まちづくり★現場ふむふむレポート」

Friends にし（ボランティアによる日本語教室）

このコーナーは「こんなところが近くにあったらいい
な」と思う場やグループをスタッフが訪問して、魅力と
工夫や知恵を紹介します。

にしひも広場 からのお知らせ

にしひも広場の講座

西区地域づくり大学校

西区の気になる情報紙

『なないろ広場』

行くぜ!! まちの施設

藤棚地域ケアプラザ



特集：世話焼きさんがまちを行く！

西区には、こんな素敵な世話焼きさんがいます。



知らんぷりしない。
気にかかれば
声をかける
ヤギシタさん。



沢山のお友達に
別れを惜しまれながら、
2015年1月ドイツに
帰国されました。

顔見知りはもちろん、 気にかかれば声をかける 八木下 実さん

「おはよう、どこまで行くの？病院？気をつけてね。」車がすれ違えないくらい細い道の、向こう側から歩いて来る高齢の女性に声をかける八木下さん。現役時代はごく近所の人以外に挨拶することがなかったそうですが、10年近く羽沢西部自治会の副会長を務める間に顔見知りが増え、今では町内のお年寄りで知らない人がいないくらいです。

あわてて外出する人に「どうした？」と声をかけ、「甥から『都内のコンビニで、小切手を入れたカバンをなくしてしまった』と電話があり、銀行へ振込みに行ってくる」と言うので、「それは振り込め詐欺かもしれない。一度家に戻って、甥っ子さんに確認してみたら」と引きとめて警察に連絡し犯人逮捕に至ったこともあります。

「挨拶が交わされるまちは、犯罪が少ない」と大人にも子どもにも声をかける。見慣れない人が地図を片手に困っている（もしくは怪しい）様子なら、「どちらかお訪ねですか？」と、知らない人にも声をかける。

いつも挨拶してくれるおじさんのおかげで、心はほっこり、まちは安心＆安全です。

つながるのが得意な外国人ママ

Elsa Bardinet Schmitz

(エルサ バーディネット シュミツ)さん

エルサさんは西区地域子育て支援拠点スマイル・ポートの常連さん。日本人、外国人分け隔てなく、人懐っこく話す姿は、スマイル・ポートを利用するママも職員も、誰もが知るところです。「家にじっとしていられなくて」と、第二子ニルス君は生後4日目にしてスマイル・ポートにデビューしたのだとか。

スマイル・ポートだけでなく、公園で見かけない外国人の親子に話しかけては、「スマイル・ポートや YOKE*1 に行ってみて」と誘い、「英語の通じる医院は？」「オムツOKのプールは？」などママの毎日の暮らしの中の疑問に答えたりしています。また「幼稚園の手続きで困っている」と聞けば一緒に幼稚園へ行ったりも！

近所のマンションの集会室に週替わりで集まるママサークルの世話役をしたり、ハロウィンの時は友が友を呼ぶイモヅル方式で、パーティーに40人も集まったりと、とにかく人とつながるのが大得意。「人と話すのが好き。あなたも公園で話しかけたら、仲のいい友達がたくさんできるわよ」と、大したことはしていないと本人は言いますが、エルサさんの情報に何人のママが助けられています。

エルさんの情報の集大成 “Tips for newcomers” は、スマイル・ポートの英語版ホームページ (<http://www.smile-port.jp/publics/index/12/>) からダウンロードできます。

*1 YOKE:

公益財団法人横浜市国際交流協会 (<http://www.yoke.or.jp/>) の略称です。多文化共生社会の実現に向けて、外国人向けの情報・相談コーナーの運営や通訳ボランティア派遣などを行っています。

連載

まちづくり★ 現場ふむふむしポート

西区で唯一の日本語ボランティアグループ
「Friends にし」

スタッフへの充実のサポート体制で、
生徒も安心。

「Friends にし」の活動開始から 7 年間での延べ生徒数は、3400 人超！それを 20 人前後のボランティアで支え続けています。

会話練習では、各生徒が身近なこととして家族の状況を話すことが多く、意図せず、各自の生活事情を聞いてしまうことも。そのため、毎回終了後には、スタッフ同士の振り返りの場を設け、学習の進捗状況の共有と同時に、生徒との程よい距離感の保ち方などの相談も丁寧に行ってています。組織でのサポート体制が整っていることで生徒からの相談ごとをスタッフが 1 人で抱えずに済み、スタッフは安心して支援を行うことができ、それが生徒の方々が安心して参加できることにつながっている—これが Friends にしの息の長~いサポートの秘訣！と、取材スタッフは納得なのでした。



[連絡先]

TEL/FAX : 045-311-0094 (高橋さん)

会場①：西地区センター

毎週火曜日 19:00 ~ 20:30 (夜間)

毎週木曜日 15:10 ~ 16:40 (午後)

会場②：横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」

毎週木曜日 10:00 ~ 11:30 (午前)

料金：1 回 100 円

URL : <http://www.adelie.jp/friendsnishi/>

ボランティア
募集中

「おやじ」仲間にも声をかけ、
「お役に立ち隊」は現在 6 人で活動中。

世話焼きオヤジ集団、 世話焼きさんを増殖中 村田 昌彦さん

町内会の班長になった村田さん（40 代）は、お祭り準備委員会に行ったところ、他のメンバーが皆 70 代だったことにビックリ。早速、会長から声をかけられ、町内会の行事の力仕事をするようになりました。

村田さんの住む霞ヶ丘は、高齢者だけの世帯が多い地域であると同時に、新しい戸建てに住む若い世帯も増えています。そこで、「体を使って、地域の役に立とう！」と同世代の男性で「お役に立ち隊」を結成。家の中の荷物の移動や電灯の交換、庭木の伐採、雪かきなどをボランティアで行うようになりました。その後、子ども会を通じて知り合った「おやじ」仲間にも声をかけ、現在 6 人で活動しています。

「飲み会も開いて、楽しくやっています。これまで入りにくかった町内会の行事にも、仲間と一緒になら参加しやすくなり、地域活動が身近になったと話しています。『お役に立ち隊』をきっかけに、若い世代と町内に長く暮らす方とのコミュニケーションが取られるようになると、町はもっと住みやすくなると思います。また、我々のような層が町内会の運営に徐々に参加していくことで、少しずつ運営者のバトンタッチができるのでは」と村田さん。

頼もしい世話焼き集団があるとまちはイキイキ。「これならできる」と、まちに世話焼きさんが増えていきそうです。

対談

世話焼きさんがいる、あつたかいまち★



左：世良田寛さん 中：今井宏之さん 右：中野しづよ

この対談は2月8日、にじとも広場にて、にじとも広場の運営団体、認定NPO法人市民セクターよこはまの中野しづよの進行で行いました。

中野

まちを歩くと、小学生の下校を見守る地域の方を見かけます。いつものおばちゃん、おじちゃんが「お帰り」と声をかけてくれると、子どもたちも挨拶しています。子どもの事を気にかけてくれる人がいるって安心ですね。そんな、世話焼きさんにまつわるエピソードがありましたら、お聞かせください。

今井

私の店は藤棚商店街の中にあります、一緒に働いているおばは、「誰々さんは何時くらいにいつもここを通るけど、今日はどうし

ちゃったのかしら」とまちの人のことをよく気にかけています。おやじは聞かれてもいいのに「商店街には誰でも使えるトイレがあるよ」と道行く人に教えたり…。そういう世話焼きさんタイプの人は商店街にはたくさんいると思います。

世良田

僕は15年くらい前に、PTA会長をやっていましたが、当時の町内会長さんが、僕の意見や想いをよく受けとめて、飲みに連れて行ってくれたり、まちや人のことをたくさん教えたりしてくれました。「世話を焼いてくれた会長さんがいたから今の自分がいるんだ」という経験があるから、「今度は人に声をかけてみよう」となっていると思います。たとえば、祭りの神輿の担ぎ手。お父さんを

対談者 プロフィール

今井 宏之さん

(有限会社 今井かまぼこ店主、藤棚一番街商店会協同組合 専務理事)

練り物を中心とした魚文化に親しんでもらおうと、学校などで「さつま揚げ教室」を開催したり、子ども向けイベント「子ども笑店街」を開催するなど、新しい商店、商店街のスタイルの確立をめざしている。

世良田 寛さん

(宮ヶ谷ネット運営委員会 代表、西区第6地区広報部長)

宮谷小学校 PTA会長を務めた後、共感する仲間と宮ヶ谷ネット運営委員会を設立。小中学校のイベントとの連携やパソコン教室・体操教室などと地域活動に奔走。会社務めの傍ら、自治会でも積極的に活動中。

見かけたら、「坦いでみませんか」と声をかける。一日の中で3回声をかけて、やっと来てくれた人もいます。その人は「実は何年も前からやりたいと思っていた」と言っていました。そんな根気の良さも、世話焼きには大切かもしれませんね。

今井

世話を焼きたい人は増えている？！

若い人で、地域に関心がある、地域の役に立つことをやりたいという人も出てきています。ダブルキャリアと言って、名刺の片面に本業、もう一方の面には社会貢献の活動を書く人や、「なんとか生活できればいい」とそれを生業にする人もいる。こうした人がこれから世話焼きさんになっていくかもしれません。

中野

ダブルキャリア、いい響きですね。人生の厚みを感じます。

世良田

「世話の焼き方が分からぬ」という人もいます。昔はちょっと気になると、声をかける人がいたのですが、今の人たちは、「他人のことには介入しない」という風潮があって、そういう声かけがされなくなりました。そんなこともあって、以前は先輩世話焼きさんから世話の焼き方を見習っていたのが、最近は見習う機会がなくて「うまい世話の焼き方」が伝授されず、声をかけても相手がその言葉で傷ついたり、おせっかいだと感じられてしまうことも起こっているようです。

それに、自分の子どもが小さいうちは余裕がなく、世話を焼くのが難しいこともあるかもしれません。ただこれについては、僕は、世話を焼く相手が自分の次の世代とか、世代が違えば気持ちに余裕が持てて、世話を焼きやすくなると感じています。

世話の焼き方が ワカラナイ人も増えている

今井

若い人の中には、「世話を焼かれたときに、どうすればいいか分からぬ」という人もいます。

世良田

会社でもそうなんですが、バブル崩壊後、社会的に競争が厳しくなり、「できないと言ふと、能力がないと思われるのでは」というプレッシャーがあつて、「助けて！」と言えなくなっているように感じます。

そして、甘えなのは若い人だけでなく、僕の親のように「人に迷惑をかけたくない」と言ふ人もいる。でも自分でできない時には頼るしかないんですけどね。

今井

世良田さんのように意見を言ふ、あるいは「助けて」と言えてこそ、世話は焼いてもらえるものですね。言える場、受けとめられる場、それから、言えない人のサインを見つけられる場…商店街はアーケードや通りが一本通っていることを活かして、何か、「まちの人たちの広場」のような使い方をしてもらえるといいなと思います。

中野

そんな場を、まちにたくさん創りたいですね。

「恩送り」という言葉があります。世話を焼いてもらってばかりで心苦しくても、そのうち誰かに返せば、巡り巡って自分も、世話を焼いてくれた人も、自分がそのうち世話を焼く相手も、みんな心があたたかくなります。世話を焼いたり焼かれたりがたくさん起ころ、あたたかいまちになるといいなという思いを胸に、まずは日頃からどんどん声をかけていきましょうよ。

今回の特集を組んで…

世話焼きさんのハ木下さんもエルサさんも、よく声をかけていることが、インタビューからわかりました。

「あれ？ どうしたのかな？ 声をかけようかな」と迷ったら、「こんなにちは」と声をかけてみる。

その練習と思って、「こんなにちは」と声をかける人を増やしていく。ご近所の人なら、それに続く言葉がなくても、

不自然じゃない。ただ挨拶するだけでも、心のふれあいでぬくもりを感じる。

それがいつか、世話を焼いたり焼かれたりのハードルを下げることにもつながっていくのかなと思いました。

(取材スタッフより)



にじとも広場からのお知らせ

にじとも広場は、まちの人と活動のつながりづくりを応援する広場です。
ママ友が欲しい、趣味をあとやりたい、出かける場所を見つけてみたい、
人の役に立つことがしたい方にぴったりの活動を紹介します。
スタッフ一同でお待ちしています。



にじとも広場の講座

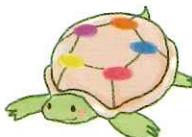
第3期 西区地域づくり大学校（2014年度）

2014年8月から2015年1月に、自治会町内会などで地域活動に関わっている方・今後取り組みたい方のための学び合いの場「西区地域づくり大学校」を開催しました。3期目となる今回は、34人が参加。西区内のまち歩きとマップづくりの体験、活動者のリレートーク、区外へのバスツアー、地域「夢プラン」*2作成ワークなどを通じて、お互い高め合いながら地域づくりを学びました。修了する頃には、受講生はすっかり学び合う仲間となり、中には作成した夢プランを地域で仲間に話し、さっそく取り組み始めることになった人も！

活動現場のヒントがいっぱいの「地域大」は、2015年度も開講の予定。詳しくは、「にじとも広場」にお問合せください。



*2: いつか実現したい、自分のまちを良くする取り組みの企画



地域大のキャラクター
「カメゴロー」

現場で活動する者同士でグループワーク

【お問合せ】にしく支援活動支援センター“にじとも広場”

【協働開催】西区役所

認定NPO法人市民セクターよこはま
にしく市民活動支援センター“にじとも広場”

にしく市民活動支援センター

にじとも広場

(管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま)

TEL/FAX 045-620-6624

Eメール ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp

住所 横浜市西区西前町2-46 大向ビル1F

開館時間 9:00～17:00

休館日：毎週水曜日・年末年始（12/29～1/3）

アクセス 京急線「戸部駅」より徒歩9分

相鉄線「平沼橋駅」より徒歩10分

企画会議メンバー：石崎麻理さん（西区在住者） 嘉藤保さん（株式会社イータウン） 高野圭子さん（にしく名・達の会、西区街の名人・達人） 松本道雄さん（高島中央公園愛護会） 山田美智子さん（西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート） 発行：にしく市民活動支援センター“にじとも広場” 発行日：2015年3月25日

西区の気になる情報紙

なないろ広場

西・中・南・神奈川区あたりの親子を対象とした、子育てを応援する情報紙です。「ぶらり～子連れ旅」のコーナーでは、エレベーターの場所や授乳・おむつ替えのスペース、ベビーカーで通れる道などが分かる“子連れに優しい”見開きのマップを掲載。2014年には秋発行の号で横浜駅構内・周辺を、夏発行の号ではみなとみらい周辺を特集しました。イベント情報も満載！アクティブな親子とアクティブになりたい親子は、ぜひチェックを！

【お問合せ】なないろ広場編集部

TEL: 045-261-2760、Eメール: 7716hiroba@goo.jp

【発行】NPO法人 WooMoo

【配布場所】西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート、MM わんぱくこどもクリニック、西区内の子育てサークル、親子ふれあい会・地域ケアプラザ等

行くぜ!! まちの施設

藤棚地域ケアプラザ～下町の交流の場

月2回行う障がい児放課後支援業「とんぼ」では、昨秋に焼き芋大会を開催。「久しぶり！」と若いお母さんの方の声に、炭火の入った一斗缶を囲みながら、子どもたち、町内会の方々が焼き芋などを食べて、普段あまり出会わない方同士の交流の場となっています。商店街が連なり、下町風情がある藤棚。ケアプラザの貸しスペースは、地域の交流の場として活用することができます。

【所在地】〒220-0053 横浜市西区藤棚町2-198

【日時】TEL: 045-253-0661（代表）、FAX: 045-253-0698

【開館時間】月曜～土曜日 9:00～21:00（※日曜・祝日は、17:00まで）
休館日：年末年始（12/29～1/3）

